

報告ダイジェスト

5/17 国際ソロプチミスト共同プロジェクト 講演会参加報告	(報告4)
5/19 渋谷区自立支援協議会全体会 2015年度始動!	(報告3)
5/23「第14回認定NPO法人ぱれっと社員総会」開催報告	(報告1)
5/24 ぱれっとの家 いこっと 5周年記念パーティー開催	(報告2)

報告1 第14回認定NPO法人ぱれっと社員総会開催報告

5月23(土)、地域交流センター恵比寿にて第14回社員総会が開催されました。当日の出席者74名、委任状提出者215名、議決権のある会員数417名の過半数となり、総会が成立、議長に田口雄一さんが選出され議事が進行了しました。2015年度の目標を皆様にお知らせします。

2015年度各事業の目標

法人事務局

■地域社会を意識した事業展開を目指す

今年度はいよいよ新規プロジェクトが動き始めます。その柱となるのは、「地域社会に根差した」事業展開です。中期計画策定にあたって、勉強会を通して皆で作った理念「人と人とのつながり」をメインに、私たちができる地域社会貢献の形を模索していこうと考えています。障がいのある人たちを取り巻く環境は、高齢化、障がいの多様化といった、多くの困難な課題を含んでいます。一つひとつ、地域とのネットワークを意識して取り組んでいこうと思います。

たまり場ぱれっと

■障がい者本人主体

障がい者本人が主体となりイベント企画や勉強会を行なう「たまり場ミーティング絆」を基盤に、「地域の一員として地域貢献をしたい」という障がい者本人からの新たなニーズを受けて、障がい者本人が地域の中で活躍できる機会をさらに増やしていきます。

■地域との強固な繋がり作り

地域の商店、施設、企業、近隣の学校にアプローチしていき、活動の幅を広げ、これまでぱれっとが築いてきた地域との繋がりを、さらに強固なものにしていきます。

おかし屋ぱれっと

■運営基盤を整備する

運営基盤の安定を図る為、おかし屋ぱれっとと事務局の移転計画を考え、同時に通所員の利用増を目指していきます。現状、運営資金の安定的な確保には訓練等給付費の支給が欠かせません。また売上を伸ばし通所員の給与のベースアップにつながるよう努めていきます。さらにスタッフの研修を充実させることで支援の質の向上を目指します。

■活動や製品の魅力を発信し売上UPにつなげる

工房ぱれっとは通所員の発想力や個性をより生かした製品作りに力を入れ、さらなる売上UPを目指します。そして展覧会の企画・実施の際には専門家やボランティアと協力関係のネットワークを作り、まずは地域を中心に認知度が上げられるよう努めていきます。

えびす・ぱれっとホーム

■高齢化への対策と、暮らしの場の拡大に向けた準備

2015年度は、高齢化により家族の支援が困難になる前に、先を見据えた準備を進めるために、入居者の家族との個別面談を行ないます。緊急一時保護においては、区との連携を強化するとともに、家族との丁寧な情報共有に努めます。現在、渋谷区ではグループホームの増設が重要課題に挙がっており、去年は親の切実な思いを耳にしました。新たな暮らしの場を具体的に設置する動きにつなげます。課題として職員の確保が想定されます。セクションを超えた協力体制や、他団体や各種サービスと連携した取り組みなど、様々な知恵を絞りながら、運営強化に努めていきます。

ぱれっとインターナショナル・ジャパン (PIJ)

■アジア知的障害会議に参加

10月3日から7日までスリランカで開催される第22回アジア知的障害会議に、おかし屋ぱれっとで働いている小西健也さんとスタッフ3名が参加します。今回は、小西さんと理事長が分科会で発表することになりました。13ヶ国の参加者との交流が益々広がる機会となります。

■アジアの研修生受け入れ

10月16日から11月6日まで、ラオスを拠点とするADDP(NPO法人アジアの障害者活動を支援する会)の現地スタッフ2名が来日し、ぱれっとを中心に研修することになりました。現場での学びがラオスで活かされ、今後、ラオスと日本の繋がりが深まることを期待しています。

ぱれっとの家 いこっと

■障がいのある入居者の生活力向上と、いこっと運営体制の見直し

いこっとがスタートして5年が経過する中、立ち上げ当初を知る入居者の多くが入れ替わりました。いこっとの特徴を理解して生活するには、お互いの信頼関係作りが重要です。入居者同士はもちろん、ぱれっとやその関係者とのつながりが安心した暮らしの土台となります。また、いこっとサポートの会(運営委員会)のメンバーも、仕事や家庭環境の変化により、役割の見直しが必要に迫られています。いこっとの根幹に変わりはありませんが、これまでを振り返りながら、これからの方向性について考え体制を見直します。

広報・啓発事業

■問題提起や資金獲得の動きを意識した広報・啓発活動を展開する

インターネットや携帯電話の普及により、情報伝達や寄付金を募る動きは大変便利になりました。情報伝達技術の発達により、今後ますます様々な方法が開発されると思いますが、利用する私たちがそこに「何をどのように」乗せて発信していくかが問われていることでもあると思います。障がいのある人たちを取り巻く環境が様々な課題を抱える中、ぱれっとつうしんやホームページなどを上手に利用してこうした問題を提起しつつ、新たなプロジェクトへの資金調達も行なっていきます。また、今年度は「動画による情報発信」にも力を入れていこうと思います。

●議事

今回の定期総会の議案は

- 第一号議案 2014年度活動報告
- 第二号議案 2014年度決算報告
- 第三号議案 2015年度活動目標
- 第四号議案 2015年度予算

以上の4つでした。議事の中で、就労支援事業の売上が下がったことについての質問があり、おかし屋ぱれっとスタッフから大口注文が減ったこと、また、今後、新商品の提案によって企業出張販売でのアピール力を高める必要性などが回答されました。また、消費税アップの中でも販売価格を維持していることについての質問では、国産品使用などの安全性を保ったまま、原材料費をいかに抑えるか、という苦勞も語られ、2015年度の目標 2000万円を達成するために新商品の発売などの予定も報告されました。監査報告では、当日は欠席でしたが、矢崎監事より文書の提出があり、事業監査、会計監査とも滞りなく完了している旨が報告されました。これらの手続きを経て、すべての議案について総会での承認を受けたことをご報告申し上げます。

5月23日の定期総会の最後に、議事とは別に、「氷川敬老館跡地における障害者グループホーム建設運営」の案件について説明の時間を取りました。定期総会開催直前の5月20日に渋谷区から指定業者決定の連絡を受けたばかりで、準備が間に合わないため、承認は下記に報告のある臨時総会で、という流れになりましたが、相馬理事長からは、長年の夢がようやく動き始めたこと、職員、理事、親、ボランティアとともに開いた勉強会で議論された内容をまさに実践できる場にする、建設にあたっては、東京都、渋谷区からの補助金が予定されていることなど、今までの流れを含めて概要が簡単に説明されました。

この事業者決定を受け、定期総会終了直後から今度は「臨時総会」開催に向けての準備が始まりました。理事会での承認、議案書の作成、発送など、来年3月の完成のために一日も早く実施段階に向かう必要があり、大変厳しいスケジュールの作業となりました。会員の皆様には何度もお知らせをする形となりましたことをお詫び申し上げます。臨時総会につきましては下記に報告させていただきます。

(認定NPO法人ぱれっと事務局長 南山達郎)

●臨時総会

【2015年度 臨時社員総会開催のご報告】

会員の皆様には事前にお知らせ申し上げましたが、去る6月20日(土)に、地域交流センター恵比寿にて「氷川敬老館跡地における障害者グループホーム建設運営事業」について、概要、予算の説明と承認を求めるための臨時社員総会を開催いたしました。当日は定期総会終了直後の急な開催であったにもかかわらず、議決権のある会員数413名のうち、出席者62名、委任状206名によって総会が成立、相馬理事長が議長となって、議事を進行しました。議案として、来年3月竣工に向けてのスケジュール、事業概要、図面の説明並びに金融機関からの借入を含む予算、債権(私募債)、寄付のお願いなど、1時間半に渡って職員から説明をさせていただき、特に、建物の設計やグループホーム運営に関する質問が多く出されました。また、10月24日には、地域に根差したぱれっとを目指すための事業展開に向けて内部の勉強会を開催する予定であることも報告されました。承認を求めた際には応援の意味を含めて、出席者全員の挙手と大きな拍手で締めくくられ、議案通りに承認されたことをご報告申し上げます。

報告2 ぱれっとの家いこっと5周年パーティー開催

「ぱれっとの家いこっと」は2015年4月で、5周年を迎えました。去る5月24日に、お世話になっている皆さんをお招きして、お祝いしました。

●入居者みんなでおもてなし

パーティーには、入居者や保護者の皆さん、入居者の暮らしを外側から支えてくださっている「いこっとサポットの会」のメンバーや隣人の「えびす・ぱれっとホーム」の皆さんが来てくれました。

いこっとの1階リビング「いこま」の壁は「いこっと写真館」として、5年間にあった出来事や入居者の活動を撮影した写真を展示しました。お料理は、中身を工夫した揚げ春巻き、ポテトサラダ、寒天やいちごゼリーを加えたフルーツポンチにいちごケーキ。月1回の料理教室でお世話になっている山野和子先生の力をお借りして作りました。

「いこっと写真館」の写真を見て、月日の流れに驚いたり、懐かしい思い出話に花が咲きました。パーティーは、入居者の渡辺幹夫さんと5月に入居したばかりの新入居者が司会を務めて、その場を盛り上げ、自己紹介やおみくじゲーム等で交流を深めました。一番長く入居している石橋美帆さんは、想いを込めて、嵐の「証(あかし)」を歌いあげました。

約1ヵ月の準備期間や当日を通して、入居者一同で力をあわせることができました。みんなで「いこっと」のこれからの歴史をつくっていきたいという思いを持つことができたパーティーになりました。私たちのこれからの見守っててください。

(ぱれっとの家いこっと入居者 河原由香里)

●共に暮らす暮らし方

2010年4月、障がいのある人となない人が一つ屋根の下で共に暮らす「ぱれっとの家いこっと」が新たな暮らしの選択肢として誕生しました。福祉職員が常駐しない暮らしとはどのようなものか、企業とNPOの協働による建築及び運営の実現、多くのボランティアを巻き込んだ企画実行体制等が注目され、この5年で約900人の見学者が訪れました。東北の被災地や国土交通省からの講演依頼、新聞雑誌等数多くの取材を受けました。「シェアハウス」という言葉が、若者の間で日常的に使用され、様々な人との暮らしも、この5年で認知されてきました。

●変わったもの、変わらぬもの

様々な入居者が、いこっとで出会い、そしてそれぞれの理由による別れがありました。入居者の入れ替わりは、新たな人の受け入れにもつながります。いこっとの特徴の一つである、障がいのある入居者の生活力向上には、人のつながりが不可欠で、安心した暮らしの土台となります。人間関係が希薄と言われる現代で、いこっとを通して、その信頼関係の大切さを丁寧に作ろうとする思いは、今も変わらず入居者の間に受け継がれています。

(えびす・ぱれっとホーム 菅原睦子)



【泣いたり、笑った…思い出がいっぱい】

報告3 2015年度渋谷区自立支援協議会始動!

5月19日(火)、渋谷区役所にて2015年度渋谷区自立支援協議会第1回全体会が開催されました。4月に区長の交代があり、渋谷区政自体も新体制になって間もない中、新たな委員の方々を迎えての船出となりました。ぱれっとからは、全体会役員に谷口理事が、福祉計画部会の副部会長に新たにえびす・ぱれっとホーム施設長の菅原が、そして就労支援専門部会委員として引き続き事務局長の南山が参加、私たちの目標でもある、「地域に根差した活動」を実行すべく、これから1年間取り組んでいきます。今年4月に渋谷区より発表された「第5次障害者保健福祉計画・第4期障害福祉計画」の策定にあたっては、昨年度福祉計画部会が中心となって答申をまとめてきました。今までになく区民の声が反映された計画になったという評価とともに、今後は実行にあたって、進捗をチェックしていくという重要な役割が求められています。さらに相談支援、就労支援の各専門部会も各々の課題解決に向けて活発な議論が展開されていくことと思います。9月には、自立支援協議会主催のシンポジウムも予定されています。新しい委員を迎えて、動きが楽しみな自立支援協議会、その進捗はまた「ぱれっとつうしん」でお知らせしていきます。(事務局長 南山達郎)

国際ソロプチミスト共同プロジェクト

報告4 ご存知ですか!日本の子どもの現状を ～6人に1人のこどもが貧困です。私達にできることは?参加報告～

去る5月17日(日) ※1国際ソロプチミストのSI東京-広尾、SI東京-桜、SI東京-弥生、SI横須賀の共同プロジェクトとして「ご存知ですか!日本のこどもの現状を」と題したシンポジウムが開催され、ぱれっとのスタッフが参加してきました。

“日本の子どもの6人に1人が貧困”この言葉に耳を疑いました。多くの方は“貧困”と聞くと発展途上国をイメージすると思いますが、「お腹いっぱい食べられない」「バランスの取れた食事は学校の給食が頼り」「明日の食事に不安を抱えた生活」という状況が今の日本で起こっているのです。そして、これらは身体(健康面)だけではなく子どもたちの心にも影響を及ぼしています。お金がないことで友人と遊べず孤立し、食事が取れないことで集中力に欠け学力の低下や、不登校になることも少なくありません。こうした貧困生活下にある多くは“シングルマザー”と言われる母子家庭です。母親の収入だけでは生活は苦しく、生活保護を受けたくても規定の厳しさから断念せざるを得ないこともまた、貧困層を増やす原因の一つなのです。

これらは身近な問題でありながら、見た目には分かりづらいことで、表面化されない根深い問題でもあります。今回のシンポジウムを通して、日本の未来を担う子どもたちが安心して学校に通い、生活ができるよう、社会全体の問題として捉えなければならぬことだと強く考えさせられました。(おかし屋ぱれっと所長 長澤美佳)

※1: 国際ソロプチミストは世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動をしています。ぱれっとの活動にも長年に渡りご支援をいただいています。